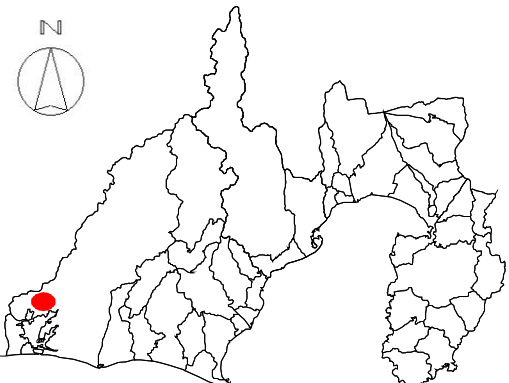
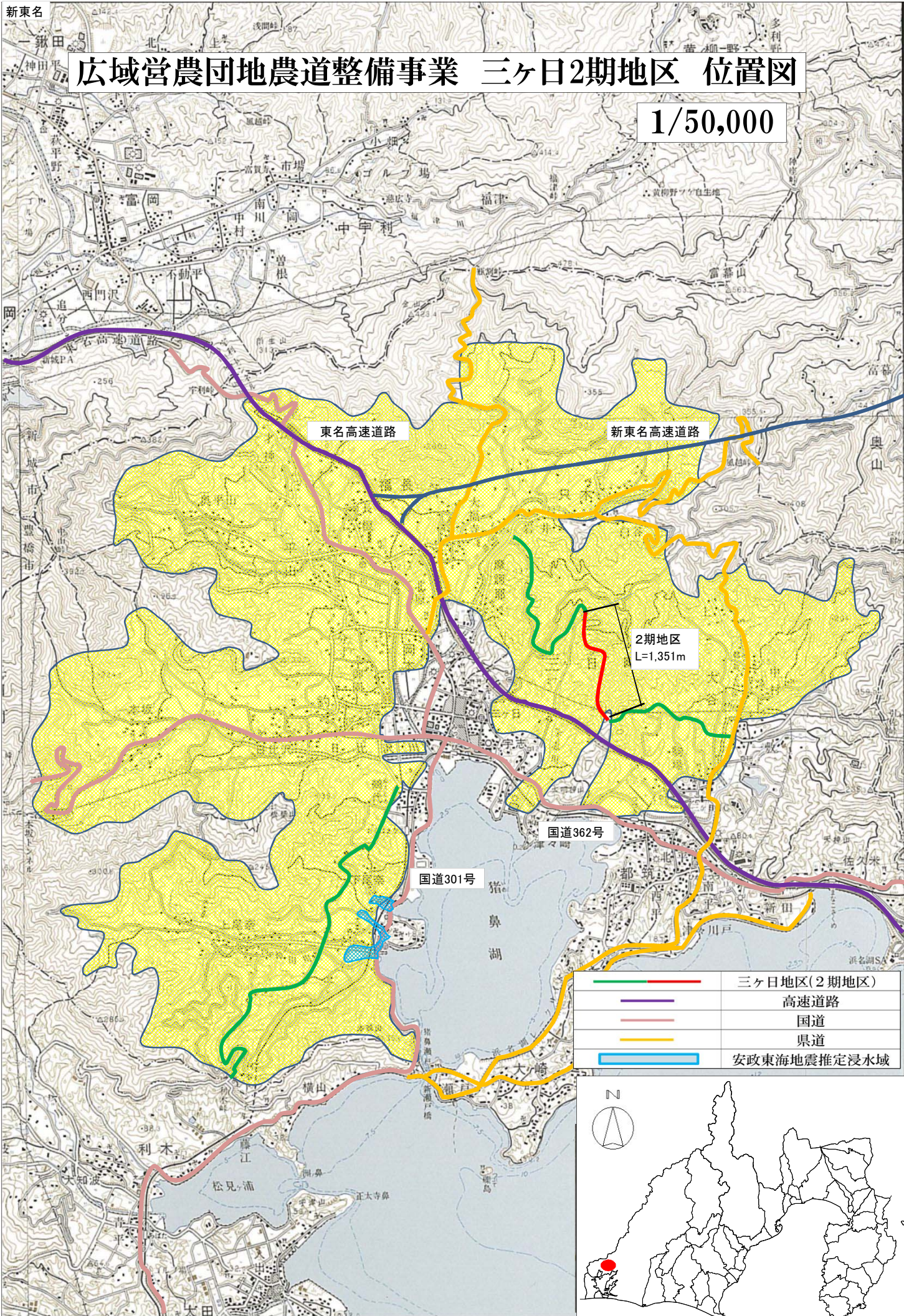


番号	15	平成26年度公共事業事後評価調書			担当課名[農地保全課]	
事業名	広域営農団地農道整備事業			事業主体	静岡県	
箇所名	みっかびき 三ヶ日2期			市町名	浜松市	
事業概要						
受益面積	1,715.0ha	採択年度	平成15年度	完了年度	当初	平成18年度
					実績	平成20年度
事業費	前回	1,300百万円(採択時)		実績	1,179百万円	
事業量	農道工 延長=1,351m 幅員5.5m(7.0m) アスファルト舗装					
事業の目的・必要性						
<p>本地区は、静岡県西部浜松市北区の浜名湖の北部丘陵地に位置し、全国ブランドである三ヶ日みかんの産地であるほか、花卉、畜産の生産が盛んな地域である。</p> <p>浜名湖北部広域営農団地整備計画(広範囲な農業地帯を対象に、地域の基幹となる作物の生産から、加工、流通までの各段階を整備し、生産、集出荷販売体制の組織化と管理体制を整備促進するための計画)を樹立した当地域で、農産物の流通の合理化や農作業の効率化を目的として、大規模な農道を整備した。</p> <p>本事業では、地域内からの集出荷施設までの1次輸送や東名高速道路等を利用した東西市場への出荷を改善するべく、広域農道三ヶ日地区で完成した区間を結ぶ延長1.4kmの農道新設を行った。</p>						
事業の効果等						
費用対効果 分析結果	採択時 (H15)	B/C	1.28	総費用 92.5億円 (事業費:87.2億円 再整備費等: 億円 関連事業費:5.3億円)	総便益 118.2億円 (農業生産向上効果:9.1億円 農業経営向上効果:105.3億円 生活環境整備効果:3.8億円)	基準年 平成15年
	事後	B/C	1.59	総費用 104.8億円 (事業費:89.6億円 再整備費等:9.5億円 関連事業費:5.7億円)	総便益 167.1億円 (食料安定供給確保効果:161.7億円 農村振興効果:5.4億円)	基準年 平成25年
1)費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化						
<ul style="list-style-type: none"> ・“土地改良事業の費用対効果分析マニュアル”の改正による評価期間、便益等分析手法の変更に伴い総費用、総便益が増加。 ・本農道が整備されたことにより、生産性の高い輸送体系が確立され、営農に係る走行経費を削減することができた。 						
2)事業効果の発現状況						
事業効果項目		事業効果内容				便益額
食料の安定供給の確保に関する効果	品質向上効果 農産物運搬時の損傷を軽減する効果					11.8億円
	維持管理費節減効果 農道の修繕等に要する労力削減効果					△0.0億円
	営農経費節減効果 農道整備による作業時間節減効果					29.1億円
	営農に係る走行経費節減効果 輸送体系が人力運搬から車両運搬に改善され、農作物運搬、資材運搬に要する労務費等の経費が削減される効果					120.7億円
農村の振興に関する効果	一般交通等経費節減効果 一般交通の走行時間節減及び走行経費節減に供する効果				5.4億円	
地域独自の効果	東名三ヶ日ICへのアクセスが向上するとともに、国道362号の通行規制時や災害時の迂回路としての効果が期待される みかん園を望むサイクリングコースとして、イベントも実施されており、三ヶ日みかんのPRにつながっている。				-	

事業により整備された施設の管理状況
<ul style="list-style-type: none"> ・道路機能の維持管理については、施設管理者である浜松市によって適正に行われている。
事業実施による環境の変化
<p>(1) 農業生産の環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場への通作や農産物等の輸送が「トラック」中心に改善されるとともに、輸送経路が短縮したことで荷卸しを含む農産物等の運搬に要する労務等が削減されるなど、物流の効率化が図られた。 ・農道整備によって、輸送・通作時間の短縮や農産物の荷痛み防止が図られた。特に、農道整備によってスピードプレイヤーのほ場への運搬が可能となり、大幅な営農労力の軽減が図られた。(H10:8台→H25まで累計:190台/年(JA三ヶ日SS導入台数)) ・また地区内の耕作放棄地についても2%(47ha)を維持している。 <p>(2) 農村の生活環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の道路整備によって地域全域に交通網が形成され、地区を貫く広域農道による広域交通が確立された。これにより、生産物の輸送と資材の運搬効率が飛躍的な向上した。さらに、集落内及び集落間の交通の利便性が向上し、農地集約範囲の拡大や農業経営の規模拡大など強固な柑橘産地としての基盤が形成された。
社会経済情勢等の変化
<p>(1) 地域社会の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市は、平成17年7月に12市町村が合併し、平成19年4月に政令市に移行した。 ・浜松市の産業別就業人口は平成17年総就業人口 42.4万人のうち、第2次産業 15.7万人、第3次産業 24.0万人で約93.7%を占めており、第1次産業は2.1万人となっている。 また、平成7年以降の経年変化をみると、第1次、第2次産業は減少し、第3次産業は増加している。 ・国道や県道の改良が進むとともに、東名高速道路と新東名の連絡道が旧三ヶ日町内を通過するなど、広域交通網の整備に伴い大都市圏や三遠南進地域との交流推進や、特産品、観光施設を活用した地域振興策が検討されている。 <p>(2) 地域経済の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧三ヶ日町生産者の多くが出荷するマルエム柑橘出荷組合においては、光センサー選果システムによって、出荷されるまでに3度の厳しい選別を受けた高品質のみかんは京浜市場を中心に流通し、他産地と比べ高水準の販売価格となっている。(九州地方のA柑橘組合に比べ東京市場の平成24年度平均価格が1.4倍) ・JAみっかび選果場で外観、光センサー選果機での大きさ、等級別に仕分けされ出荷されているが、マルチシートにより太陽の反射光を浴びせ、樹が吸う水分を制限した『濃蜜青島』や、貯蔵技術のほか、貯蔵に耐えられる果実を作る栽培技術が必要な本貯蔵『誉れ』といったブランドにも取り組んでいる。 ・通常よりも長期間樹に果実をならせた早生ミカン「心」、越冬(えっとう)完熟早生「和み」といったブランドづくりや、「濃蜜青島」を使ったジュース「ピュアレスト蜜柑(みかん)」も製品化している。
対応方針(案)
<p>(1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない。 ・営農に係る走行経費の節減等、事業効果が十分発現されている。 ・地域の生活道路や観光道路、また広域災害時の緊急輸送路や避難路として、交通ネットワークの多重化に寄与している。 ・撰果場の光センサー選果システムによる公平な品質評価によって、「三ヶ日みかん」としてこれからも変わらぬブランド力が期待できる。 <p>(2) 今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本道を管理する浜松市は、本道を地区内ミカン園を結ぶ重要な交通路として捉えており、農耕車両の安全確保や利用実態に合わせた適正な管理を徹底していく。 ・東海地震等の広域災害時に、緊急輸送路や避難路として国道362号を補完し、東名高速道路三ヶ日ICへのアクセスの多重化を維持するため、災害時においても道路機能を維持できるよう、管理者(浜松市)に対する防災上重要な法面施設の点検や維持管理等の技術支援を継続していく。 ・近年は、国道362号や301号等の地域内幹線道路の改良も進んでいることから、本広域農道による2次輸送の効率化の役割は変わりつつある。 <p>(3) 同種事業への反映等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年11月11日に行われた行政刷新会議「事業仕分け」での廃止の決定を受け、農林水産省における広域農道整備事業は廃止となったが、今後は、農道から距離がある樹園地内に耕作道を整備することにより営農条件の更なる向上を図る。

広域営農団地農道整備事業 三ヶ日2期地区 位置図

1/50,000



広域営農団地農道整備事業三ヶ日2期地区 事業効果

整備状況



(従前)

道路の整備後は、

- 1 輸送経路が短縮。
農家～ほ場の距離が0.7km減
- 2 輸送時間が短縮。
時速40kmへ。

通作(家～畑)時間が短縮



防除



収穫

運搬(畑～集出荷場等)時間が短



運搬


JA三ヶ日選果場へ運送

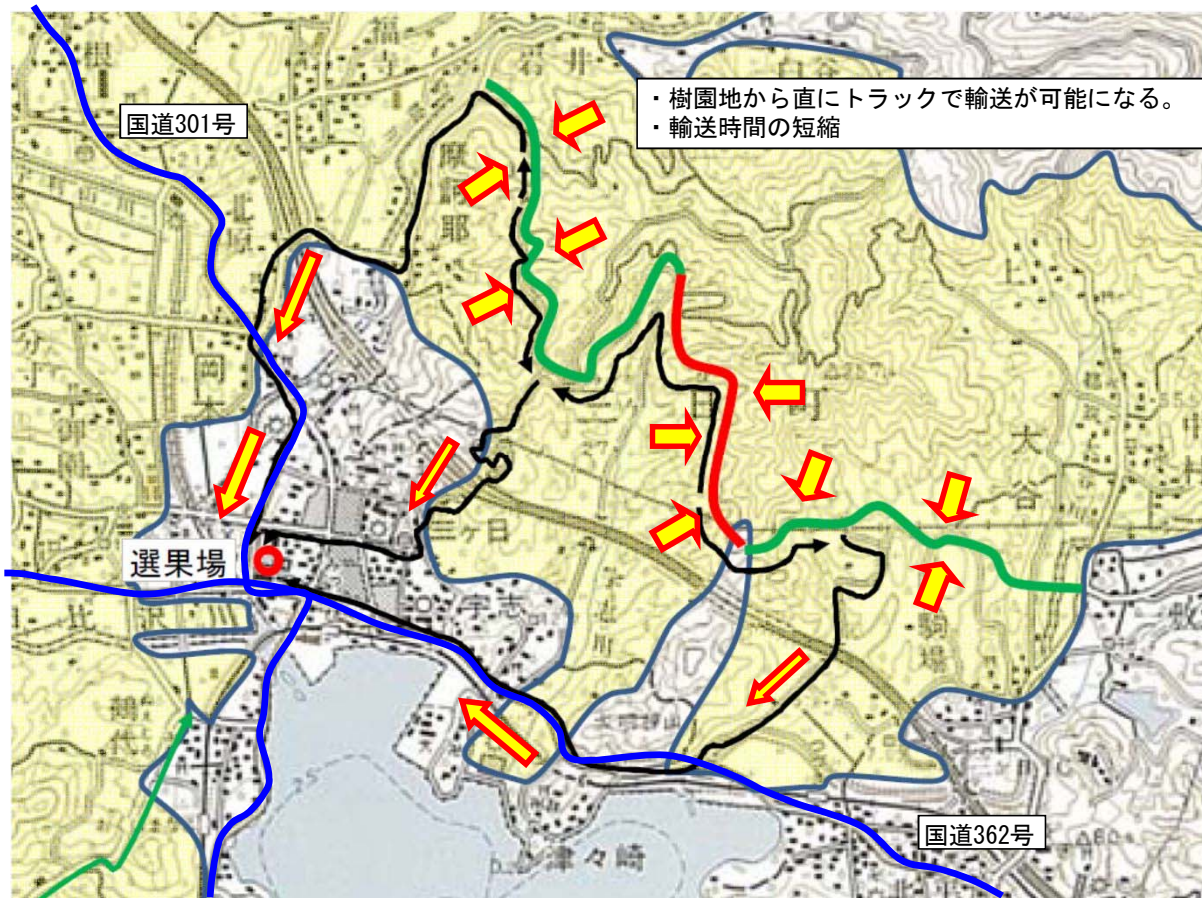


運搬

広域営農団地農道整備事業三ヶ日2期地区 事業効果

輸送経路の改善

運搬経路 



トラックによる選果場への輸送



